

令和 8 年度 第 2 回岐阜市立図書館協議会 議事概要

日 時:令和 8 年 9 月 1 日(火)午前 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所:みんなの森 ぎふメディアコスモス 1階 第一会議室

出 席 者:10 人

久世 均委員(会長)、杉山 喜美恵委員(副会長)、太田 千香子委員、
斉木 良美委員、嶋田 学委員、いずみ 凜委員、大野 正子委員、
神 尚喜委員、平賀 研也委員、出崎 綾子委員

(事務局)長尾館長、富長副館長、近藤係長、武生係長、野村係長、中島係長
高橋主任主事

(ぎふメディアコスモス分館準備室)村井 GL、加藤主任主事

傍 聴 者:なし

議事概要:

■議題に対する委員からの意見

(1) 第 4 次岐阜市子どもの読書活動推進計画について

- ・読書を「本を読むこと」だけに限定せず、多様な関わり方を保障し、子ども一人ひとりに合った形で本や情報に出会えることを大切にしてほしい。
- ・読書をインプットだけで終わらせず、読んだことを誰かに伝える、語り合う、表現する、調べたことを発信するなど、アウトプットにつながる活動も重視してほしい。
- ・デジタル化が進み、リテラシーなどが大きな課題の中で、物語だけでなく、図鑑や辞典、論文といったものを読むという、読書とは何かという点での広がりがなく、従来の「本との触れ合いの環境を整える」読書推進に重点置かれているように感じられる。
- ・子どもたちにとって、学校図書館でどのような読書体験や学びの機会が得られるかが課題であり、その点への言及が足りない。
- ・「図書館がどうなれば利用しやすくなりますか」のアンケート質問に対して、「小中学生向けの本に読みたい本を増やすこと」の回答が一番多い。子どもたちには読みやすい、読みたい本があるということが、すごく大事である。
- ・市立図書館の学校連携室が学校教育に活用されるよう周知していくことが課題である。
- ・読書に困難がある子ども達が学校図書館に足を運びやすくなるようにバリアフリー図書の展示や市立図書館と貸出しなどの連携をして、本が読める機会を作っていきたい。
- ・今後の読書推進計画を進めるにあたり、市立図書館が学校の先生とより緊密な連携をとることが大切である。

(2) 図書館分館整備について

- ・中央図書館が大切にしてきた多様な人が排除されず、それぞれの過ごし方を認め合える空間という理念を、分館整備においても踏襲してほしい。
- ・今後、図書館がデジタル化を進めることが必要になるので、電子図書館といった新しい図書

館の姿を目指すのも良い。

- ・現在の図書館分館利用者の約 24%が加納地区在住の人であることも考慮し、地域の図書館としての在り方は存続してほしい。

- ・今のメディアコスモスは、1 階が貸し部屋や企画展示など行うメディコス、2 階が図書館というように区切られているので、両方を融合した施設になるとよい。

- ・訪れた人たちが自ら参画して施設を作っていけると良い。それがシビックプライド醸成にもつながると考える。

- ・図書館のみでなく、その施設自体に来たいという人を増やさないといけないので、2 階を使ってその工夫ができると良い。

- ・アナログなお話会とかも継続は大事だが、独立性があると良いと思う。

- ・若者たちが駅を使う流れの中で滞在型施設にできるのはとても大事なこと。

- ・施設がサードプレイス、キッズプレイスになることはもちろん、若者から赤ちゃんまで幅広く触れ合いができる場になると良い。

- ・岐阜駅は、岐阜市外の人たちとのインターフェースにもなっているところなので、ぜひ「岐阜市」をプロモーションできるような場所になることを期待している。